

地域福祉活動における ICT活用ポイント集

令和5年3月

大阪市社会福祉協議会

(令和4年度「ICTでもつながりづくりプロジェクト」)

※この事業は、令和4年度大阪府福祉基金地域福祉振興助成金を活用しておこなっています。

▶ 「ICTでもつながりづくりプロジェクト」とは

市・区社協において、ICTの活用方法を分かりやすくすることで、苦手意識を払拭し、活動の促進につなげることや、ICTを活用した活動やつながりづくりに対するチャレンジ精神が醸成され、活性化されることを目的に、区や担当業務の枠を超えて、ICT活用について検討し、発信していくプロジェクトです。

▶ こんな人に

- ・ ICTを活用して様々な形でつながりつづけたい人に
- ・ ICTを活用した取り組みをはじめてみたい人に

▶ 使い方

- ・ ICTツールを使える人を増やしたいときに
- ・ 職場や仲間で、ICTの活用について検討するときに

なぜ地域福祉活動にICT？

- ▶そもそもICTとは？
- ▶なぜ地域福祉活動にICT？
- ▶地域福祉活動でのICT活用のイメージ

ICTでつながる、つなげる

- ▶ICTツールを使える人を増やそう！

ICTで多様な参加を

- ▶講演会等の開催にICTを取り入れてみよう！

ICTで効果的に情報発信

- ▶区社協でのSNS活用イメージしてみよう！
- ▶動画制作にチャレンジ

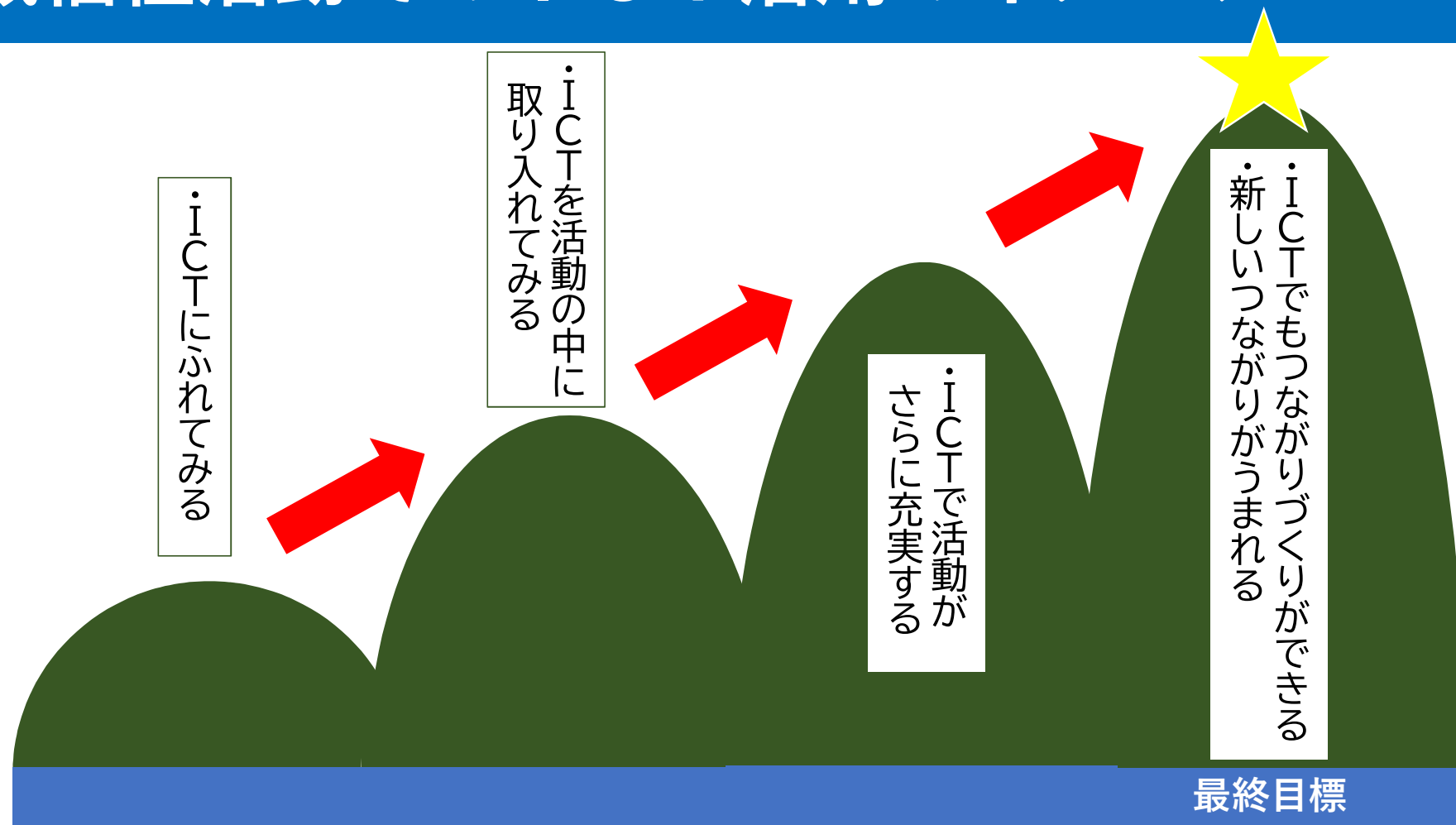
▶そもそもICTとは？

ICTは「Information and Communication Technology（情報通信技術）」の略で、通信技術を活用したコミュニケーションを指します。簡単に言うと、SNS上でのやり取りやメールでのコミュニケーション、オンラインショッピング等、人同士のコミュニケーションを手助けしたり、「IT技術を使ってどのように人々の暮らしを豊かにしていくか」という活用方法に関する考え方です。

▶なぜ地域福祉活動にICT？

- ・集まれなくてもつながれる
- ・「いつでも ちょこっとでも つながれる」
- ・新しいつながりがうまれる

地域福祉活動でのICT活用のイメージ



「地域福祉活動でICT活用を」といわれても、何からはじめてよいのか分からないという人も多いのではないのでしょうか。まずは活用方法をイメージし、何から始められるか考えてみましょう。

ICTで
つながる、つなげる

ICTツールを使える人を増やそう！

ステップ1

【状況・背景】を整理しよう

- ・コロナ禍でオンライン活用が進んだ
- ・スマホを持っている高齢者が増えた など

「なぜそれをやるのか」
「それをすることでどうなりたいか」など【目的・ねらい】を確認しよう

- ・ボランティア活動の場を開拓・継続するために
- ・オンラインツールを教えられたい人がほしい
- ・高齢者のつながりづくりのために など

ステップ2

どんな取り組みをおこなうか【企画】しよう

ICTツールの活用を切り口にした活動につなげたい！

例) オンラインボランティア講座、スマホサポーター講座

多くの人がICTツールを使えるようになり、つながれる人をふやしたい！

例) シニアのためのZoom講座、LINE講座

ステップ2.5

講座等を【実施】しよう

- ・広報
→募集の段階で、目的やねらいが伝わるように広報。紙チラシ以外でも発信
- ・参加人数
→最初は少人数でも、口コミで増えていくことも
- ・回数
→1回きりだと参加のハードル下がる。複数回だと仲間意識が醸成されやすい
- ・講師
→専門団体に依頼するほか、学生ボランティアにお願いするなど

ステップ3

実施後の【フォローアップ】も忘れずに

- ・復習会の開催
- ・習ったことを活かす場面づくり など

具体的な【活動】につなげることを目指して！



ICTツールを使える人を増やそう！

8

オンラインボランティアの養成<福島区社協>

ZOOM

講座

高齢者

ボランティア

ステップ1



【状況・目的】

- ・コロナ禍でオンラインを活用した地域活動やボランティア活動が進んでいる。
高齢者の活動の場が広がるきっかけとなり得る。
- ・今後オンラインを活用した取組みをさらに広げていくために、オンラインの操作のサポートをおこなうボランティアを養成する。



「オンライン(ZOOM)ボランティア養成講座」を企画する。

ステップ2



【講座の開催】(令和3年度)

- ▶1講目 講義・体験「ZOOMを使ってみよう」
「ZOOMを使った取組みの紹介」
- ▶2講目 講義・体験「ホストの役割について」
「ZOOMの機能」
*1講目・2講目講師:特定非営利活動法人きんきうえぶ
- ▶3講目「自宅からZOOMを使ってみよう」

ICTツールを使える人を増やそう！

9

オンラインボランティアの養成<福島区社協>

ZOOM

講座

高齢者

ボランティア

ステップ3



【講座受講後の活動】

- ▶ZOOM復習会
 - ・1~2ヶ月に1回ZOOMで集まって実施。
 - ・ZOOM操作の復習をおこなったり、近況報告をするうちに自然と特技や趣味を共有する場にも発展。
- ▶ボランティア活動
 - ・オンラインボランティアとして、ZOOMの操作のサポートなどで活動する。
 - 例：社会福祉施設とパフォーマンスボランティアをZOOMでつなぐ。オンライン健康体操部など。

新たなステップへ



<令和4年度>

- ▶ZOOM復習会⇒「オンライングループふくふじ」に。
 - ・外に出ることは難しいが、オンラインでつながることで交流を持ち続けたいという思いで、今後も引き続き活動継続することとなり、メンバーで案を出し、グループ名を決定。
- ▶新たなメンバーの参加
 - ・ロコミでメンバーを増やしていきたいという思いから、メンバーのロコミを中心に新たなメンバーが参加。
 - ・新メンバー参加時は、メンバーがオンラインのサポートをおこない、ボランティア活動にもつながっている。
 - 活動内容：1~2ヶ月に1回程度オンラインで集まり、近況報告や季節の思い出写真や音楽の共有など

ICTツールを使える人を増やそう！

山之内地域スマホ相談室 〈住吉区社協〉

スマホ 地域 学生 交流

住吉区山之内地域では、毎月ふれあい喫茶開催時にスマホ相談室を開設。近隣の大学生やボランティアが活躍しています！

新たなステップへ

スマホのちょっとした困りごとの解消だけでなく、新たな出会い・交流が生まれるきっかけにもなっています。



桃谷地域スマホサポーター 〈中央区社協〉

スマホ 地域 高齢者 参加支援

中央区桃谷地域では、地域のスマホサポーターがふれあい喫茶の「スマホの操作お助けコーナー」で活躍中！

新たなステップへ

他地域でもスマホサポーターの取組みが広がっており、サポーター同士の交流も進んでいます。



ICTで
多様な参加を

講演会等の開催にICTを取り入れてみよう

申込み

電話

- ▶ ネット環境がない人も申込みできる
- ▷ 受付時間が限られる

メール、FAX

- ▶ 受付時間を気にせず申し込める
- ▷ 誤送信で受付できないことがある

申込みフォームを使う

- ▶ GoogleフォームやHappyのアンケート機能などで作成。チラシ等に二次元コード掲載も可
- ▶ 集約が容易
- ▶ SNSでの募集と連動させやすい
- ▷ ネット環境がない人は使えない

申込みフォームと電話等を併用

- ▶ 参加者が申込みやすいものを選べる
- ▷ 集約もれがないよう注意が必要

実施

対面

- ▶ 顔を合わせるからこそそのムードづくりができる
- ▷ 時間や距離の都合で参加できない人もいる

オンライン

- ▶ 人数を気にせず開催できる
- ▶ 離れていても参加できる（遠方の講師も依頼しやすい）
- ▷ 視聴環境がないと参加できない
- ▷ 慣れていない人もいる

ハイブリッド（対面＋オンライン）

- ▶ 参加者の希望で選ぶことができる
- ▷ 対面とオンラインで温度差をうまない工夫が必要

アンケート

アンケート用紙

- ▶ その場で書いて提出してもらいやすい
- ▷ 集約や分析に手間がかかる

アンケートフォーム

- ▶ Googleフォームなどで作成
- ▶ 集約や分析が容易で、参加者にフィードバックしやすい
- ▷ 慣れていない人もいる

対象やテーマ、規模などに合わせて「何を取り入れるのか」「なぜ取り入れるのか」を検討しよう！



講演会等の開催にICTを取り入れてみよう

あったかネットコーディネーター・
サポーター研修会
＜住之江区社協＞

ZOOM

研修会

オンライン

多拠点

区内14地域の地域福祉会館にタブレット端末を貸与し、LINE WORKSを使った情報共有やコロナ禍での「見守りあったかネットコーディネーター」連絡会のオンライン開催など、ICTの活用を進めてきました。

令和3年2月には、講師、区社協、14地域の地域福祉会館をつないでオンライン研修会を開催。各地域福祉会館を拠点としたことで、コロナ禍でも分散して、大人数の参加が実現しました。他の会館の様子も見えるようにし、一緒に体操する時間を取り入れたことで、一体感も生まれました。



福祉を学ぶ学生のための施設職員との懇談会
＜市社協＞

ZOOM

施設

学生

ハイブリッド

社会福祉施設では人材確保が大きな課題となっていることから、大学生等を対象に、施設の若手職員から、福祉の仕事の魅力と実情を伝える場を会場・オンライン併用で開催しました。

大勢の前でも気軽に意見を出せるように、Google フォーム（匿名可）で質問を募りました。会場参加者にはレジュメに二次元コードを掲載し、オンライン参加者には、URLをZOOMのチャットで送信。集約後に司会者が質問をもとに進行することで参加型のプログラムとなりました。



質問・意見箱（福祉を学ぶ学生のための施設職員との懇談会）

休憩時間にご記入ください。いただいた質問や意見をもとに、時間のゆるぎ、後半のセッションをすすめていきます。

聞きたいこと（聞きたい相手がいれば、職員名の記入をお願いします）

回答を入力

ICTで
効果的に発信

区社協でのSNS活用イメージしてみよう

様々なSNSツールを組み合わせることで、幅広い層に情報を届け、活動内容をしっかりと伝えることができます。



中止や変更など急な発信ができる

公式LINE

- ▶ 興味のある人に確実に届ける
- ▶ 講座やイベントの周知、毎月の地域行事の予定など
- ▶ 主に流動的な情報（フロー情報）を送信
- ▶ リアルタイム性が強いので、講座等の抽選結果のお知らせにも使える
- ▶ 相談受付のツールにも

QRコードで簡単に登録してもらいやすい

登録してもらえれば確実に情報を届けられる！

ホームページ

- ▶ 法人全体の情報発信の拠点
- ▶ 各SNSアカウントにアクセスできる
- ▶ 主に固定的な情報（ストック情報）を掲載

詳細の説明ができる！「詳しくはホームページへ」

登録なしで誰でも情報を得られる

Facebook

- ▶ 講座のお知らせや実施報告など
- ▶ 広報誌の記事を紹介することも
- ▶ 写真をたくさん投稿できる
- ▶ いいね・シェア等で情報が広がりやすい

情報発信に興味のある活動者が利用している

関連動画から目に留まる可能性も！

YouTube

YouTubeショートを使って制作も視聴も気軽に

- ▶ 動画での発信
- ▶ 視覚化して分かりやすく届ける
- ▶ 活動紹介動画や体操などのコンテンツのほか、講演会等のオンデマンド配信も可能

企業、NPO等とつながりやすい！

再生回数で効果が分かる！

Instagram

- ▶ 主に写真・動画で、感覚的なアピールや広報が可能
- ▶ イベントの周知や報告
- ▶ ハッシュタグを活用すれば情報収集のツールにも

アンケート機能がある・地図と併せて投稿できる

若い世代に発信しやすい（10～20代の70%が利用）

動画制作にチャレンジ！

ステップ1 企画

【検討する点】

- ・動画にする目的や動画の用途
- ・動画全体の流れやコンセプト
- ・企画から投稿、その後の活用のスケジュール
- ・撮影編集の機材、撮影編集の人材、役割分担

ステップ2 準備

【撮影交渉、許諾】

- ・出演者、団体、場所の撮影及び配信の許諾、日程確保や予約

【準備するもの】

- ・企画全体のスケジュール表
- ・撮影日のスケジュール表
- ・編集後の動画のイメージ図（絵コンテなど）
- ・撮影及び編集の機材

※スケジュール表の時間軸に沿って役割分担や場所等が記載されているとわかりやすい。

※雨天時のプランがあると安心。

ステップ3 撮影

【編集を考えた撮影】

- ・許諾を得ていない人、場所、広告等の映り込みに注意するとモザイク処理などの手間が省ける。
- ・動画と併せて記録写真を撮ると、サムネイルやナレーションのみのシーン等に活用できる。
- ・動画内容の紹介やナレーションをおこないながらの撮影をすると、録音の手間が省ける。
- ・複数台のカメラで同時に撮影すると、よく撮れた方の映像を採用できる。

ステップ4 編集

【編集の基礎】

- ①撮影したデータから必要な部分だけを選んで**切る**（トリミング）。
- ②切った動画をシーケンスに**並べる**。
- ③字幕や音声、BGMを**重ねる**。
- ④1本の動画として**つなげる**（書き出し）。

【レベルアップに挑戦】

- ・字幕、タイトル、見出しなどの文字を追加する。
- ・ナレーション、BGM、効果を追加する。
- ・キャッチ、エフェクト等を追加する。
- ・SNSや過去動画への誘導を意識する。

ステップ5 投稿

【投稿前の注意】

- ・著作権や肖像権、個人情報侵害していないか
- ・登場する人物は法令を遵守した行動をしているか。

【投稿時の注意】

- ・公開範囲
- ・公開期間

【ポイント】

- ・概要欄を活用し、動画の概要や法人の基本情報を記載すると効果的。
- ・公開停止や情報更新を継続的に行う。

動画制作にチャレンジ！

「社協職員のとある1日」動画の制作 ＜令和4年度「ICTでもつながりづくりプロジェクト」＞

ステップ1 企画

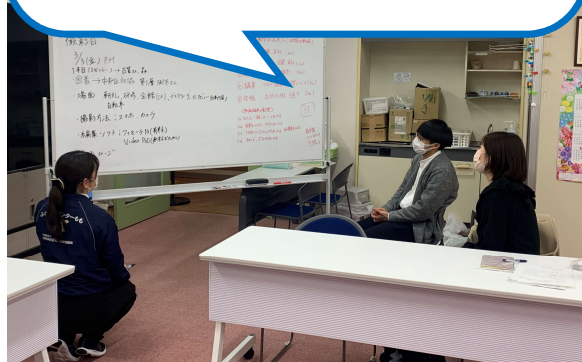
ステップ2 準備

ステップ3 撮影

ステップ4 編集

ステップ5 投稿

「社協職員のとある1日」は、動画制作に対するハードルを下げ、気軽に動画制作に取り組んでもらうことを目的として企画しました。



絵コンテを参考にしながら、撮影。個人情報の映り込みに注意しました。後で編集しやすいように撮影者のナレーションを入れたり、適宜写真を撮影したりしました。

撮影はスマホ、編集は無料ソフトでおこないました。動画や画像を「切る」「並べる」「重ねる」「つなげる」の基本を覚えればOKです。



プロジェクトチームからのメッセージ



ICT活用は、得意な人だけではなく「誰でもできる」ものです。ICT活用をコロナ禍だけのものではなく、アフターコロナでも、魅力的なツールとして活用し続けてほしいと思います。

このプロジェクトをきっかけに、職員間のコミュニケーションが活発になりました。各区社協で、動画やSNSの活用について意見交換する機会が増えればうれしいです。



今回作成した「ポイント集」と「動画」が、新しいつながりのきっかけになると思います。ステップを確認しながら「ここを一緒にやりましょう」と、職場内や地域の方に提案することもできます。誰かと一緒にやると楽しいですよ。

ICTは活用の余地がまだまだ多くあり、地域の方や利用者の方、関係者の方などから反応があったり、効果が見られたりすると手応えを感じます。これまでICT活用に苦手意識があった人も、ぜひ取り組んでみてほしいです。



作成・編集

令和4年度「ICTでもつながりづくりプロジェクト」チーム

| | |
|-------|-------------------------|
| 福島区社協 | 第1層生活支援コーディネーター 塚下 瞳 |
| 中央区社協 | 包括支援担当 森 千遥 |
| 城東区社協 | 地域支援担当 古賀 愛望 |
| 西成区社協 | 地域支援担当 橋口 風伍 |



問合せ 大阪市社会福祉協議会 地域福祉課

各所属は令和5年3月時点のものです
掲載している各ICTツールの仕様等は作成時点のものです